

# 高知大からJ指導陣へ

## 清家さん↓鳥取、竹本さん↓愛媛

今春、高知大学を卒業するサッカー部の4年生2人が、コーチや分析官としてJクラブのトップチームの指導陣に加わる。同大学の部員が、選手経験や若い世代の指導者を経ずに直接、トップチームの指導に携わるのは初めて。同部では近年、学生コーチが中心となって対戦相手の分析をしたり、対策を考えたりする機会が増えており、部員たちの進路に新たな可能性が加わった形。2人は「チームの戦力になれるように必死で頑張る」と意気込んでいる。

Jクラブに入るのは清も採用するチームが増え家芳樹さん(22)と竹本登るなどと、重要度が増すボ也さん(21)。清家さんはシシヨンド。

J3ガイナレ鳥取のアシスタントコーチ兼分析間、高知大Bチームの指導担当、竹本さんはJ2愛媛FCの分析担当として、すでにチームに合流している。

分析担当は、映像などで対戦相手の戦術、特長を分析して分かりやすく味方に伝える。自チームの弱点についても解析し、改善の手助けをする。近年、J2、3で

### サッカー部 進路に新たな可能性

が新しく、勉強になって、遂げられると思える場所」と声を弾ませる。楽しい。戦力になれた時には、すさまじい成長を一方、竹本さんはこの



高知大サッカー部からJ2愛媛FCに分析官として加入する竹本登也さん(右)と、J3ガイナレ鳥取にアシスタントコーチとして加入する清家芳樹さん

1年間、Aチームでヘッドコーチを務め、全国大会出場を懸けた四国大学トーナメント優勝に貢献した。Jクラブも含めてサッカー関連の進路を探す中で、知り合いの縁もあって愛媛FC入りが決まった。「結果を出すしかない世界。来年も居られる保証はないですからね。わくわくより、緊張感の方が大きい」と気を引き締める。

高知大は近年、宮武政司監督の「将来的に指導者になりたいという目標を持つ部員に経験を積ませたい」という意向もあって、Aチーム以外は学生コーチが監督を務めるなど、部員に大きな役割を任せている。

「年明けの全国大会出場もIリーグの優勝も、2人の力があつたからこそ」と宮武監督。今回のJ入りの意味を「学生コーチの経験を生かしてJクラブのスタッフ入りができたことにはある意味で最高の形。後輩たちの目標の幅が広がったと思う」と話す。高知大サッカー部が、これまでとはまた違った輝きを放ち始めている。(井上真一)